

四 半 期 報 告 書

2021年6月第1四半期

〔 自 2021年4月1日
至 2021年6月30日 〕

トヨタ自動車株式会社

E 0 2 1 4 4

2021年6月第1四半期（自2021年4月1日 至2021年6月30日）

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用して、2021年8月6日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	6
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【要約四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	29
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	30

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年8月6日

【四半期会計期間】 2021年6月第1四半期
(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

【会社名】 トヨタ自動車株式会社

【英訳名】 TOYOTA MOTOR CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役社長 豊田章男

【本店の所在の場所】 愛知県豊田市トヨタ町1番地

【電話番号】 <0565>28-2121

【事務連絡者氏名】 経理部長 鈴木浩之

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区後楽一丁目4番18号

【電話番号】 <03>3817-7111

【事務連絡者氏名】 広報部長 酒井良

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

会計期間	2020年6月 前第1四半期 連結累計期間	2021年6月 当第1四半期 連結累計期間	2021年3月期
	自 2020年4月1日 至 2020年6月30日	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
営業収益 (百万円)	4,600,796	7,935,558	27,214,594
税引前四半期（当期）利益 (百万円)	118,233	1,257,220	2,932,354
親会社の所有者に帰属する 四半期（当期）利益 (百万円)	158,843	897,832	2,245,261
親会社の所有者に帰属する 四半期（当期）包括利益 (百万円)	226,258	1,117,394	3,217,806
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	20,713,930	24,123,041	23,404,547
総資産 (百万円)	55,916,537	61,651,149	62,267,140
基本的1株当たり親会社の所有者に帰属 する四半期（当期）利益 (円)	56.87	321.13	803.23
希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰 属する四半期（当期）利益 (円)	56.87	321.11	794.67
親会社所有者帰属持分比率 (%)	37.0	39.1	37.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	673,252	958,958	2,727,162
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△337,617	627,100	△4,684,175
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,335,157	△1,691,389	2,739,174
現金及び現金同等物四半期末（期末） 残高 (百万円)	6,801,561	5,013,426	5,100,857

- (注) 1 当社の要約四半期連結財務諸表は、国際財務報告基準（以下、IFRSという。）に基づいて作成していません。
- 2 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 【事業の内容】

要約四半期連結財務諸表提出会社（以下、当社という。）は、IFRSに準拠して要約四半期連結財務諸表を作成しており、関係会社の範囲についてもIFRSの定義に基づいています。「第2 事業の状況」においても同様です。

当社および当社の関係会社においては、自動車事業を中心に、金融事業およびその他の事業を行っています。

当第1四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当該事業に携わっている主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、事業等のリスクについて新たに生じた重要な事項および重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

① 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における日本、海外を合わせた自動車の連結販売台数は、前年同四半期連結累計期間に新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴う自動車市場の落ち込みなどがあった影響から、214万8千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて99万台（85.4%）の増加となりました。日本での販売台数については、50万台と、前年同四半期連結累計期間に比べて11万6千台（30.1%）の増加となりました。海外においても、164万8千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて87万4千台（113.0%）の増加となりました。

当第1四半期連結累計期間の業績については、次のとおりです。

営業収益	7兆9,355億円	（前年同期比増減	3兆3,347億円	（72.5%）
営業利益	9,974億円	（前年同期比増減	9,835億円	（7065.9%）
税引前 四半期利益	1兆2,572億円	（前年同期比増減	1兆1,389億円	（963.3%）
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	8,978億円	（前年同期比増減	7,389億円	（465.2%）

なお、営業利益の主な増減要因は、次のとおりです。

営業面の努力	9,400億円
為替変動の影響	1,400億円
原価改善の努力	△50億円
諸経費の増減・低減努力	△250億円
その他	△665億円

事業別セグメントの業績は、次のとおりです。

a. 自動車事業

営業収益は7兆2,412億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて3兆2,648億円（82.1%）の増収となり、営業利益は7,800億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて8,666億円の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数の増加などによるものです。

b. 金融事業

営業収益は5,788億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて438億円（8.2%）の増収となり、営業利益は1,960億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1,037億円（112.5%）の増益となりました。営業利益の増益は、米国の販売金融子会社において、融資利鞘の拡大、貸倒関連費用および残価損失関連費用が減少したことなどによるものです。

c. その他の事業

営業収益は2,412億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて351億円（17.0%）の増収となり、営業利益は216億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて123億円（132.2%）の増益となりました。

所在地別の業績は、次のとおりです。

a. 日本

営業収益は4兆966億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1兆4,209億円（53.1%）の増収となり、営業利益は5,185億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて4,411億円（569.7%）の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数の増加などによるものです。

b. 北米

営業収益は2兆8,750億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1兆4,938億円（108.2%）の増収となり、営業利益は2,488億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて3,174億円の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数の増加などによるものです。

c. 欧州

営業収益は9,869億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて5,155億円（109.4%）の増収となり、営業利益は300億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて520億円の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数の増加などによるものです。

d. アジア

営業収益は1兆5,319億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて6,254億円（69.0%）の増収となり、営業利益は1,666億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1,238億円（289.3%）の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数の増加などによるものです。

e. その他の地域（中南米、オセアニア、アフリカ、中近東）

営業収益は6,882億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて4,069億円（144.7%）の増収となり、営業利益は653億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて771億円の増益となりました。営業利益の増益は、営業面の努力などによるものです。

②財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における財政状態については、次のとおりです。

総資産は61兆6,511億円と、前連結会計年度末に比べて6,159億円（1.0%）の減少となりました。負債は36兆6,342億円と、前連結会計年度末に比べて1兆3,445億円（3.5%）の減少となりました。資本は25兆169億円と、前連結会計年度末に比べて7,285億円（3.0%）の増加となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は5兆134億円と、前連結会計年度末に比べて874億円(1.7%)の減少となりました。

当第1四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況と、前年同四半期連結累計期間に対するキャッシュ・フローの増減は、次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、9,589億円の資金の増加となり、前年同四半期連結累計期間が6,732億円の増加であったことに比べて、2,857億円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、6,271億円の資金の増加となり、前年同四半期連結累計期間が3,376億円の減少であったことに比べて、9,647億円の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、1兆6,913億円の資金の減少となり、前年同四半期連結累計期間が2兆3,351億円の増加であったことに比べて、4兆265億円の減少となりました。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社および連結子会社の研究開発支出は2,741億円です。また、要約四半期連結損益計算書に計上している研究開発費は2,847億円です。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000,000
計	10,000,000,000

(注) 2021年5月12日の取締役会において、株式分割および株式分割に伴う定款の一部変更を行うことを決議しています。株式分割に伴い、当該株式分割の効力発生日である2021年10月1日に、当社の発行可能株式総数は、10,000,000,000株から50,000,000,000株に増加します。

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年8月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,262,997,492	3,262,997,492	東京、名古屋、ニュー ヨーク、ロンドン各証 券取引所(東京、名古屋 は市場第1部)	単元株式数 100株 (注)
計	3,262,997,492	3,262,997,492	—	—

(注) 発行済株式は、すべて議決権を有する株式です。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年4月1日～ 2021年6月30日 (注)	△47,100	3,262,997	—	635,402	—	655,323

(注) 第1回AA型種類株式の消却による減少であります。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（2021年3月31日）に基づく株主名簿により記載しています。

① 【発行済株式】

2021年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等) (注) 1	普通株式 508,605,000	—	—
	第1回A A型種類株式 24,401,700	—	—
完全議決権株式(その他) (注) 2	普通株式 2,751,770,000	27,517,700	—
	第1回A A型種類株式 22,696,200	226,962	—
単元未満株式	普通株式 2,622,492	—	—
	第1回A A型種類株式 2,100	—	—
発行済株式総数	3,310,097,492	—	—
総株主の議決権	—	27,744,662	—

(注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」は、自己株式491,435,800株と相互保有株式41,570,900株です。

2 「完全議決権株式(その他)」には、(株)証券保管振替機構名義の株式が4,000株(議決権40個)含まれています。

3 第1回A A型種類株式は、2021年4月3日付で全株式を消却しています。

② 【自己株式等】

2021年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有普通 株式数 (株)	自己名義 所有A A型 種類株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
トヨタ自動車㈱ [自己株式]	愛知県豊田市トヨタ町 1番地	467,048,800	24,387,000	—	491,435,800	14.85
アイシン精機㈱ (注)2	愛知県刈谷市朝日町 2丁目1番地	34,529,500	—	—	34,529,500	1.04
豊田合成㈱	愛知県清須市春日長畑 1番地	1,818,200	—	—	1,818,200	0.05
名古屋テレビ放送㈱	愛知県名古屋市中区橋 二丁目10番1号	900,000	—	—	900,000	0.03
フタバ産業㈱	愛知県岡崎市橋目町字 御茶屋1番地	816,300	—	—	816,300	0.02
トヨタ瑞浪開発㈱	岐阜県瑞浪市日吉町 8671番地の1	722,500	—	—	722,500	0.02
豊田鉄工㈱	愛知県豊田市細谷町 四丁目50番地	500,000	—	—	500,000	0.02
アイシン高丘㈱	愛知県豊田市高丘新町 天王1番地	484,000	—	—	484,000	0.01
㈱デンソーテン	兵庫県神戸市兵庫区 御所通一丁目2番28号	347,300	—	—	347,300	0.01
豊臣機工㈱	愛知県安城市今本町 東向山7番地	317,100	—	—	317,100	0.01
トヨタ紡織㈱	愛知県刈谷市豊田町 一丁目1番地	240,500	—	—	240,500	0.01
京三電機㈱	茨城県古河市丘里 11番地3	222,400	—	—	222,400	0.01
トリニティ工業㈱	愛知県豊田市柿本町 一丁目9番地	150,600	—	—	150,600	0.00
ナミコー㈱	兵庫県伊丹市東有岡 一丁目65番地	140,000	10,000	—	150,000	0.00
共和レザー㈱	静岡県浜松市南区東町 1876番地	100,000	—	—	100,000	0.00
愛三工業㈱	愛知県大府市共和町 一丁目1番地の1	97,700	—	—	97,700	0.00
㈱東海理化電機 製作所	愛知県丹羽郡大口町 豊田三丁目260番地	77,900	—	—	77,900	0.00
愛知製鋼㈱	愛知県東海市荒尾町 ワノ割1番地	39,900	—	—	39,900	0.00
大豊工業㈱	愛知県豊田市緑ヶ丘 三丁目65番地	15,200	—	—	15,200	0.00
㈱徳島ダイハツモー ターズ	徳島県徳島市論田町 本浦下84番地	13,000	—	—	13,000	0.00
アイシン軽金属㈱	富山県射水市奈呉の江 12番地の3	9,900	—	—	9,900	0.00
㈱メタルアート	滋賀県草津市野路 三丁目2番18号	7,800	—	—	7,800	0.00
㈱浅野歯車工作所	大阪府大阪狭山市東池 尻四丁目1402番地の1	6,200	—	—	6,200	0.00
ラティス・テクノロ ジー㈱	東京都文京区後楽 二丁目3番21号	—	4,700	—	4,700	0.00
津田工業㈱	愛知県刈谷市幸町 一丁目1番地1	200	—	—	200	0.00
計	—	508,605,000	24,401,700	—	533,006,700	16.10

(注) 1 自己株式等は受渡日を基準として算定したものです。

2 アイシン精機㈱は2021年4月1日で、㈱アイシンに商号を変更しております。

2 【役員の様況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）第93条の規定を適用し、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下、「IAS第34号」という。）に準拠して作成しています。

また、要約四半期連結財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を四捨五入して表示しています。各数値の合計が合計額と一致しない場合があります。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）および第1四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）にかかる要約四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けています。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2021年6月30日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		5,100,857	5,013,426
営業債権及びその他の債権		2,958,742	2,889,722
金融事業に係る債権		6,756,189	6,561,573
その他の金融資産		4,215,457	2,861,753
棚卸資産		2,888,028	3,098,874
未収法人所得税		112,458	108,946
その他の流動資産		745,070	890,195
流動資産合計		22,776,800	21,424,490
非流動資産			
持分法で会計処理されている 投資		4,160,803	4,269,682
金融事業に係る債権		12,449,525	12,739,826
その他の金融資産		9,083,914	9,299,118
有形固定資産			
土地		1,345,037	1,342,917
建物		4,999,206	5,044,078
機械装置		12,753,951	12,839,895
賃貸用車両及び器具		6,203,721	6,305,745
建設仮勘定		675,875	659,959
小計		25,977,791	26,192,594
減価償却累計額及び減損損失 累計額<控除>		△14,566,638	△14,634,579
有形固定資産合計		11,411,153	11,558,015
使用権資産		390,144	384,224
無形資産		1,108,634	1,100,561
繰延税金資産		336,224	310,632
その他の非流動資産		549,942	564,603
非流動資産合計		39,490,339	40,226,659
資産合計		62,267,140	61,651,149

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期 連結会計期間 (2021年6月30日)
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務		4,045,939	3,769,291
有利子負債		12,212,060	10,529,725
未払費用		1,397,140	1,409,823
その他の金融負債		763,875	756,539
未払法人所得税		350,880	427,281
品質保証に係る負債		1,482,872	1,454,227
その他の流動負債		1,207,700	1,282,132
流動負債合計		21,460,466	19,629,020
非流動負債			
有利子負債		13,447,575	13,935,172
その他の金融負債		323,432	292,718
退職給付に係る負債		1,035,096	1,042,428
繰延税金負債		1,247,220	1,258,596
その他の非流動負債		465,021	476,314
非流動負債合計		16,518,344	17,005,228
負債合計		37,978,811	36,634,248
資本			
資本金		397,050	397,050
資本剰余金		497,275	497,379
利益剰余金		24,104,176	24,655,333
その他の資本の構成要素		1,307,726	1,496,510
自己株式		△2,901,680	△2,923,231
親会社の所有者に帰属する持分 合計		23,404,547	24,123,041
非支配持分		883,782	893,861
資本合計		24,288,329	25,016,901
負債及び資本合計		62,267,140	61,651,149

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

【要約四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (2020年6月30日に終了 した3ヶ月間)	当第1四半期連結累計期間 (2021年6月30日に終了 した3ヶ月間)
営業収益			
商品・製品売上収益	8	4,069,855	7,362,417
金融事業に係る金融収益	8	530,941	573,140
営業収益合計	8	4,600,796	7,935,558
売上原価並びに販売費及び 一般管理費			
売上原価		3,726,300	6,014,841
金融事業に係る金融費用		325,068	271,078
販売費及び一般管理費		535,508	652,150
売上原価並びに販売費及び 一般管理費合計		4,586,876	6,938,068
営業利益		13,920	997,489
持分法による投資損益		△12,572	161,483
その他の金融収益		114,789	72,065
その他の金融費用		△10,012	△7,484
為替差損益<純額>		8,510	25,921
その他<純額>		3,599	7,746
税引前四半期利益		118,233	1,257,220
法人所得税費用		△31,214	330,679
四半期利益		149,448	926,540
四半期利益の帰属			
親会社の所有者		158,843	897,832
非支配持分		△9,396	28,708
四半期利益		149,448	926,540

(単位：円)

1株当たり親会社の所有者に帰属する 四半期利益			
基本的	9	56.87	321.13
希薄化後	9	56.87	321.11

【要約四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (2020年6月30日に終了 した3ヶ月間)	当第1四半期連結累計期間 (2021年6月30日に終了 した3ヶ月間)
四半期利益		149,448	926,540
その他の包括利益 (税効果考慮後)			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の公正価値変動		144,082	1,565
確定給付制度の再測定		△1,578	△4,361
持分法で会計処理されている投資の その他の包括利益に対する持分相当額		△86,421	61,695
合計		56,084	58,899
純損益に振り替えられる可能性のある 項目			
在外営業活動体の為替換算差額		65,319	78,998
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の公正価値変動		4,014	11,224
持分法で会計処理されている投資の その他の包括利益に対する持分相当額		△41,707	70,200
合計		27,626	160,422
その他の包括利益 (税効果考慮後) 合計		83,709	219,322
四半期包括利益		233,157	1,145,862
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		226,258	1,117,394
非支配持分		6,899	28,469
四半期包括利益		233,157	1,145,862

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第1四半期連結累計期間（2020年6月30日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	注記	親会社の所有者に帰属する持分					非支配持分	資本合計	
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の資本の構成要素	自己株式			合計
2020年4月1日現在残高		397,050	489,334	22,234,061	585,549	△3,087,106	20,618,888	720,124	21,339,012
四半期包括利益									
四半期利益		—	—	158,843	—	—	158,843	△9,396	149,448
その他の包括利益 （税効果考慮後）		—	—	—	67,415	—	67,415	16,295	83,709
四半期包括利益合計		—	—	158,843	67,415	—	226,258	6,899	233,157
所有者との取引等									
配当金の支払	7	—	—	△331,938	—	—	△331,938	△17,932	△349,870
自己株式の取得		—	—	—	—	△13	△13	—	△13
自己株式の処分		—	15,031	—	—	185,542	200,573	—	200,573
連結範囲の変動		—	—	—	—	—	—	67,331	67,331
その他		—	163	—	—	—	163	17,316	17,478
所有者との取引等 合計		—	15,193	△331,938	—	185,529	△131,216	66,715	△64,501
その他の資本の 構成要素から利益 剰余金への振替		—	—	12,756	△12,756	—	—	—	—
2020年6月30日現在残高		397,050	504,527	22,073,722	640,208	△2,901,577	20,713,930	793,737	21,507,667

当第1四半期連結累計期間（2021年6月30日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	注記	親会社の所有者に帰属する持分					非支配持分	資本合計	
		資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の資本の構成要素	自己株式			合計
2021年4月1日現在残高		397,050	497,275	24,104,176	1,307,726	△2,901,680	23,404,547	883,782	24,288,329
四半期包括利益									
四半期利益		—	—	897,832	—	—	897,832	28,708	926,540
その他の包括利益 （税効果考慮後）		—	—	—	219,561	—	219,561	△240	219,322
四半期包括利益合計		—	—	897,832	219,561	—	1,117,394	28,469	1,145,862
所有者との取引等									
配当金の支払	7	—	—	△377,453	—	—	△377,453	△19,494	△396,947
自己株式の取得		—	—	—	—	△21,600	△21,600	—	△21,600
自己株式の処分		—	34	—	—	49	83	—	83
その他		—	70	—	—	—	70	1,104	1,174
所有者との取引等 合計		—	104	△377,453	—	△21,551	△398,900	△18,389	△417,290
その他の資本の 構成要素から利益 剰余金への振替		—	—	30,778	△30,778	—	—	—	—
2021年6月30日現在残高		397,050	497,379	24,655,333	1,496,510	△2,923,231	24,123,041	893,861	25,016,901

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記	前第1四半期連結累計期間 (2020年6月30日に終了 した3ヶ月間)	当第1四半期連結累計期間 (2021年6月30日に終了 した3ヶ月間)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
四半期利益		149,448	926,540
減価償却費及び償却費		398,044	439,778
金融事業に係る利息収益及び利息費用		△47,617	△83,022
持分法による投資損益		12,572	△161,483
法人所得税費用		△31,214	330,679
資産及び負債の増減ほか		134,000	△588,367
利息の受取額		173,382	198,692
配当金の受取額		190,101	241,885
利息の支払額		△101,457	△89,881
法人所得税の支払額		△204,007	△255,863
営業活動によるキャッシュ・フロー		673,252	958,958
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の購入<賃貸資産を除く>		△358,358	△335,088
賃貸資産の購入		△386,686	△739,484
有形固定資産の売却<賃貸資産を除く>		12,650	9,996
賃貸資産の売却		265,751	419,887
無形資産の取得		△74,804	△64,515
公社債及び株式の購入		△592,187	△868,405
公社債及び株式の売却及び公社債の満期償還		593,473	640,954
その他	10	202,544	1,563,755
投資活動によるキャッシュ・フロー		△337,617	627,100
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期有利子負債の純増減額 (△は減少)		△213,223	△80,929
長期有利子負債の増加		3,982,675	2,128,592
長期有利子負債の返済		△1,284,411	△3,320,588
親会社の所有者への配当金の支払額	7	△331,938	△377,453
非支配持分への配当金の支払額		△17,932	△19,494
自己株式の取得 (△) 及び処分		199,986	△21,517
財務活動によるキャッシュ・フロー		2,335,157	△1,691,389
現金及び現金同等物に対する為替変動の影響額		32,319	17,901
現金及び現金同等物純増減額 (△は減少)		2,703,111	△87,430
現金及び現金同等物期首残高		4,098,450	5,100,857
現金及び現金同等物四半期末残高		6,801,561	5,013,426

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

当社は、日本に所在する株式会社であり、その本社は愛知県豊田市に登記されています。当第1四半期連結会計期間（2021年6月30日に終了した3ヶ月間）および当第1四半期連結累計期間（2021年6月30日に終了した3ヶ月間）の要約四半期連結財務諸表は、当社および連結子会社（以下、トヨタという。）ならびに関連会社および共同支配企業に対する持分により構成されています。

当社および当社の関係会社は主にセダン、ミニバン、コンパクト、SUV、トラック等の自動車とその関連部品・用品の設計、製造および販売を世界的規模で行っています。また、当社および当社の関係会社が製造する自動車および他の製品の販売を補完するための金融ならびに車両のリース事業を、主として販売代理店およびその顧客に対して行っています。

2. 作成の基礎

(1) IFRSに準拠している旨

トヨタの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たしており、同規則第93条の規定によりIAS第34号に準拠して作成しています。要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

当要約四半期連結財務諸表は、2021年8月4日に取締役会にて承認されています。

(2) 測定の基礎

トヨタの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品、退職給付に係る負債等を除き、取得原価を基礎として作成しています。

(3) 機能通貨及び表示通貨

トヨタの要約四半期連結財務諸表の表示通貨は、当社の機能通貨である日本円であり、百万円未満を四捨五入しています。各数値の合計が合計額と一致しない場合があります。

3. 重要な会計方針

トヨタの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度にかかる連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

トヨタは、IFRSに準拠した要約四半期連結財務諸表を作成するにあたり、会計方針の適用、資産・負債および収益・費用の報告額ならびに偶発資産・偶発債務の開示に影響を及ぼす判断、見積りおよび仮定の設定を行っています。実際の結果は、これらの見積りとは異なる場合があります。なお、これらの見積りおよび仮定は継続して見直しています。会計上の見積りの変更による影響は、見積りを変更した報告期間およびその影響を受ける将来の報告期間において認識しています。

本要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、原則として前連結会計年度にかかる連結財務諸表と同様です。

5. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

以下に報告されているオペレーティング・セグメントは、そのセグメントの財務情報が入手可能なもので、その営業損益がマネジメントによって経営資源の配分の決定および業績の評価に定期的に使用されているものです。

トヨタの世界的事業の主要部分は、自動車および金融で成り立っています。自動車セグメントでは、セダン、ミニバン、コンパクト、SUV、トラック等の自動車とその関連部品・用品の設計、製造および販売を行っています。金融セグメントでは、主として当社および当社の関係会社が製造する自動車および他の製品の販売を補完するための金融ならびに車両のリース事業を行っています。その他セグメントでは、情報通信事業等を行っています。

(2) 報告セグメントの収益および業績

前第1四半期連結累計期間（2020年6月30日に終了した3ヶ月間）

(単位：百万円)

	自動車	金融	その他	消去	連結
営業収益					
外部顧客への営業収益	3,969,038	530,941	100,817	—	4,600,796
セグメント間の営業収益	7,397	4,035	105,272	△116,704	—
計	3,976,435	534,976	206,088	△116,704	4,600,796
営業費用	4,063,010	442,694	196,768	△115,596	4,586,876
営業利益・損失(△)	△86,574	92,282	9,320	△1,108	13,920

当第1四半期連結累計期間（2021年6月30日に終了した3ヶ月間）

(単位：百万円)

	自動車	金融	その他	消去	連結
営業収益					
外部顧客への営業収益	7,233,324	573,140	129,094	—	7,935,558
セグメント間の営業収益	7,921	5,712	112,131	△125,765	—
計	7,241,245	578,852	241,225	△125,765	7,935,558
営業費用	6,461,150	382,776	219,581	△125,439	6,938,068
営業利益	780,095	196,076	21,644	△325	997,489

各セグメントにおける会計方針は、トヨタの要約四半期連結財務諸表における会計方針と一致しています。事業別セグメント間取引は、通常の業務上行う取引条件で行っています。

(3) 地域に関する情報

前第1四半期連結累計期間(2020年6月30日に終了した3ヶ月間)

(単位:百万円)

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
営業収益							
外部顧客への 営業収益	1,695,703	1,352,655	444,732	839,311	268,396	—	4,600,796
所在地間の 営業収益	979,996	28,482	26,720	67,194	12,826	△1,115,219	—
計	2,675,699	1,381,138	471,452	906,505	281,221	△1,115,219	4,600,796
営業費用	2,598,272	1,449,737	493,420	863,702	292,944	△1,111,198	4,586,876
営業利益・損失(△)	77,427	△68,599	△21,968	42,803	△11,722	△4,021	13,920

当第1四半期連結累計期間(2021年6月30日に終了した3ヶ月間)

(単位:百万円)

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
営業収益							
外部顧客への 営業収益	2,150,774	2,813,461	942,080	1,373,730	655,512	—	7,935,558
所在地間の 営業収益	1,945,888	61,561	44,916	158,270	32,699	△2,243,334	—
計	4,096,661	2,875,022	986,997	1,531,999	688,211	△2,243,334	7,935,558
営業費用	3,578,118	2,626,171	956,924	1,365,387	622,824	△2,211,356	6,938,068
営業利益	518,543	248,851	30,073	166,612	65,387	△31,978	997,489

(注)「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカ、中近東からなります。

上記の金額は、当社または連結子会社の所在国の位置を基礎とした地域別に集計されています。所在地間取引は、通常の業務上行う取引条件で行っています。

(4) 外部顧客の所在地別営業収益

トヨタは、IFRSで要求される情報に加え、財務諸表利用者に有用な情報を提供するため、当該情報を開示しています。

	金額:百万円	
	6月30日に終了した3ヶ月間	
	2020年	2021年
日本	1,312,764	1,652,916
北米	1,367,270	2,859,747
欧州	424,328	894,249
アジア	975,020	1,446,752
その他	521,415	1,081,894
合計	4,600,796	7,935,558

(注)「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカ、中近東ほかからなります。

6. 公正価値測定

(1) 公正価値ヒエラルキーの定義

トヨタはIFRSに基づき、公正価値の測定を、それに用いたインプットの観察可能性および重要性によって以下の3つのレベルに分類しています。

レベル1：活発な市場における同一資産および負債の市場価格

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接または間接的に使用して測定した公正価値

レベル3：観察不能なインプットを用いて測定した公正価値

(2) 公正価値の測定方法

資産および負債の公正価値は、関連市場情報および適切な評価方法を使用して決定しています。

資産および負債の公正価値の測定方法および前提条件は、次のとおりです。

①現金及び現金同等物

現金同等物は、契約上の満期が3ヶ月以内のマネー・マーケット・ファンド等から構成されています。通常の事業において、ほとんどすべての現金及び現金同等物は極めて流動性が高く、購入時点から満期日までの期間が短期であり、その公正価値は帳簿価額と近似しています。

②営業債権及びその他の債権、営業債務及びその他の債務

これらの公正価値は、短期間で決済されるため、帳簿価額と近似しています。

③金融事業に係る債権

金融事業に係る債権の公正価値は、期限前返済率、予想信用損失および担保価値など、社内の仮定を用いて、将来キャッシュ・フローを現在価値に割り引くことにより見積もっています。

金融事業に係る債権の公正価値は、これらの観察不能なインプットを利用しているため、レベル3に分類しています。

④その他の金融資産

(公社債)

公社債には国債等が含まれ、2021年3月31日および2021年6月30日現在、その構成割合は、それぞれ国内債券28%、米国・欧州などの海外債券72%、および国内債券27%、米国・欧州などの海外債券73%となっています。これらは主に、それぞれ同一資産の市場価格により測定しています。

(株式)

株式は2021年3月31日および2021年6月30日現在、それぞれ89%および88%が日本市場の上場株式です。これらは主に、それぞれ同一資産の市場価格により測定しています。したがって、活発な市場のある株式はレベル1に分類しています。

活発な市場のない株式の公正価値は、マーケットアプローチ等に基づく評価等を用いて測定しています。したがって、活発な市場のない株式はレベル3に分類しています。

レベル3に区分された株式の公正価値の測定に関する重要な観察不能なインプットは、類似企業の株価純資産倍率および割引キャッシュ・フロー法に用いられる割引率等です。公正価値は類似企業の株価純資産倍率の上昇（低下）、割引率の低下（上昇）により増加（減少）します。なお、観察不能なインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合に見込まれる公正価値の増減は重要ではありません。

これらの見積りに当たっては、それぞれの場合に照らして妥当と思われる評価方法に基づいています。発行企業の財務状況および将来の展望、取引の成否等の重要な仮定に対する不確実性や、異なる仮定および見積方法を用いることにより、公正価値が大きく変化することがあります。

レベル3に区分された株式は、トヨタの連結決算会計方針に従い、トヨタの担当部門が四半期ごとに入手可能な情報を用いて測定し、公正価値の変動の根拠と併せて上位者に報告がなされています。

⑤デリバティブ金融商品

トヨタは、金利および為替の変動によるリスクを管理するために、先物為替予約取引、通貨オプション取引、金利スワップ取引、金利通貨スワップ取引および金利オプション取引等のデリバティブ金融商品を利用しています。デリバティブ金融商品は主に、金利、為替レートなどの観察可能な市場情報および契約条項を利用した標準的な評価手法を用いて測定しており、測定に重要な判断を必要としません。これらのデリバティブ金融商品はレベル2に分類しています。観察可能な市場情報を入手できない場合には、取引相手から入手した価格やその他の市場情報により測定し、観察可能な市場情報を用いて当該価格の変動の妥当性を検証しています。これらのデリバティブ金融商品はレベル3に分類しています。また、倒産確率などを用い、取引相手およびトヨタの信用リスクを考慮して測定しています。

⑥有利子負債（短期借入債務および長期借入債務）

特別目的事業体を通じて行った証券化取引に基づく担保付きの借入金（以下、証券化に基づく借入金という。）を除く、短期借入債務および長期借入債務（1年以内に返済予定の長期借入債務を含む）の公正価値は、類似した負債をトヨタが新たに借入れる場合に適用される利率を用いて、将来キャッシュ・フローを現在価値に割引くことにより見積もっています。当該観察可能なインプットの利用により、公正価値はレベル2に分類しています。

証券化に基づく借入金の公正価値は、直近の市場レートおよび支払期日が類似する債務の信用スプレッドに基づいて見積もられます。また、トヨタは証券化された原債権に対して支払われるキャッシュ・フローのタイミングを見積もるために、期限前返済率や予想信用損失など、社内の仮定も用います。証券化に基づく借入金の公正価値については、これらの観察不能なインプットを利用しているため、レベル3に分類しています。

(3) 継続的に公正価値で測定する金融商品

トヨタが継続的に公正価値で測定している金融商品は次のとおりです。なお、公正価値のレベル間振替は、各四半期連結会計期間末に認識されています。

	金額：百万円			
	2021年3月31日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
その他の金融資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
公社債	22,926	28,269	8,406	59,600
株式	—	—	317,101	317,101
デリバティブ金融商品	—	282,364	—	282,364
その他	366,570	123,255	—	489,824
合計	389,495	433,887	325,506	1,148,889
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
公社債	3,075,042	2,981,239	19,218	6,075,498
株式	2,623,964	—	321,816	2,945,780
その他	7,986	—	—	7,986
合計	5,706,991	2,981,239	341,034	9,029,264
その他の金融負債：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融商品	—	△425,980	—	△425,980
合計	—	△425,980	—	△425,980

	金額：百万円			
	2021年6月30日			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
その他の金融資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
公社債	46,085	97,986	2,585	146,656
株式	—	—	319,050	319,050
デリバティブ金融商品	—	290,205	—	290,205
その他	261,007	151,072	—	412,079
合計	307,092	539,264	321,635	1,167,991
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
公社債	3,077,655	3,196,322	19,507	6,293,484
株式	2,746,600	—	290,862	3,037,461
その他	8,064	—	—	8,064
合計	5,832,319	3,196,322	310,369	9,339,009
その他の金融負債：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ金融商品	—	△292,002	—	△292,002
合計	—	△292,002	—	△292,002

(4) レベル3に分類された継続的に公正価値で測定する金融商品の変動

レベル3に分類された継続的に公正価値で測定している金融資産および負債の変動の内訳は次のとおりです。

金額：百万円

	2020年6月30日に終了した3ヶ月間			
	公社債	株式	デリバティブ 金融商品	合計
期首残高	32,931	370,452	—	403,383
利得または損失(△)				
純損益	28	△1,527	—	△1,499
その他の包括利益	691	1,266	—	1,957
購入および発行	49	3,027	—	3,077
売却および決済	△1,617	△150	—	△1,767
その他	749	4,698	—	5,447
四半期末残高	32,831	377,767	—	410,598

金額：百万円

	2021年6月30日に終了した3ヶ月間			
	公社債	株式	デリバティブ 金融商品	合計
期首残高	27,623	638,917	—	666,540
利得または損失(△)				
純損益	167	△375	—	△208
その他の包括利益	—	△15,334	—	△15,334
購入および発行	782	1,575	—	2,357
売却および決済	△1,374	△105	—	△1,479
レベル3からの振替	△5,834	△64,469	—	△70,304
その他	728	49,704	—	50,432
四半期末残高	22,092	609,912	—	632,004

なお、公社債、株式およびデリバティブ金融商品の純損益計上額は金融事業にかかる取引を除き、要約四半期連結損益計算書上、それぞれ「その他の金融収益」および「その他の金融費用」に含めて計上しています。金融事業にかかる取引については、それぞれ「金融事業に係る金融収益」および「金融事業に係る金融費用」に含めて計上しています。

上記のデリバティブ金融商品は、資産と負債(△)を合計して純額で表示しています。2020年6月30日および2021年6月30日に終了した各3ヶ月間における「その他」には、外貨換算調整額が含まれています。

2021年6月30日に終了した3ヶ月間に認識された株式のレベル3からの振替は、投資先が取引所に上場したことによるものです。

(5) 償却原価で測定する金融資産および金融負債

償却原価で測定している金融資産および金融負債の帳簿価額と公正価値は次のとおりです。

金額：百万円					
2021年3月31日					
帳簿価額	公正価値			合計	
	レベル1	レベル2	レベル3		
金融事業に係る債権 有利子負債	19,205,715	—	—	19,939,810	19,939,810
長期借入債務 (1年以内返済予定 含む)	20,718,142	—	17,749,022	3,244,912	20,993,934

金額：百万円					
2021年6月30日					
帳簿価額	公正価値			合計	
	レベル1	レベル2	レベル3		
金融事業に係る債権 有利子負債	19,301,398	—	—	19,947,915	19,947,915
長期借入債務 (1年以内返済予定 含む)	19,822,562	—	16,831,237	3,278,144	20,109,381

上記の表には、償却原価で測定する金融資産および金融負債のうち、帳簿価額が公正価値と近似するものを含めていません。

7. 配当金

配当金支払額は、次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間（2020年6月30日に終了した3ヶ月間）

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年5月12日 取締役会	普通株式	331,938	120.00	2020年3月31日	2020年5月28日

当第1四半期連結累計期間（2021年6月30日に終了した3ヶ月間）

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年5月12日 取締役会	普通株式	377,453	135.00	2021年3月31日	2021年5月28日

8. 営業収益

外部顧客向け営業収益の事業別・商品別内訳は次のとおりです。

	金額：百万円	
	6月30日に終了した3ヶ月間	
	2020年	2021年
商品・製品売上収益		
自動車事業		
車両	3,165,032	6,053,670
生産用部品	263,909	355,717
部品	402,607	571,203
その他	137,490	252,733
自動車事業合計	3,969,038	7,233,324
その他の事業	100,817	129,094
商品・製品売上収益合計	4,069,855	7,362,417
金融事業に係る金融収益	530,941	573,140
営業収益合計	4,600,796	7,935,558

9. 1株当たり情報

基本的小よび希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益の差異の調整は次のとおりです。

	金額：百万円	単位：千株	金額：円
	親会社の所有者に 帰属する 四半期利益	加重平均 普通株式数	1株当たり親会社の 所有者に帰属する 四半期利益
2020年6月30日に終了した3ヶ月間：			
親会社の所有者に帰属する四半期利益	158,843		
基本的1株当たり			
親会社の所有者に帰属する四半期利益	158,843	2,793,274	56.87
希薄化の影響			
希薄化効果を有する種類株式	—	—	
希薄化後1株当たり			
親会社の所有者に帰属する四半期利益	158,843	2,793,274	56.87
2021年6月30日に終了した3ヶ月間：			
親会社の所有者に帰属する四半期利益	897,832		
基本的1株当たり			
親会社の所有者に帰属する四半期利益	897,832	2,795,810	321.13
希薄化の影響			
希薄化効果を有する種類株式	23	249	
希薄化後1株当たり			
親会社の所有者に帰属する四半期利益	897,855	2,796,059	321.11

- (注) 1 2020年6月30日に終了した3ヶ月間において、47,100千株の第1回AA型種類株式は、逆希薄化効果を有するため希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益の計算から除外しています。
- 2 2020年12月14日開催の取締役会において、第1回AA型種類株式について、当社による金銭対価の取得条項を行使し、残存する第1回AA型種類株式の全部を取得することおよび当該取得を条件として会社法第178条の規定に基づき第1回AA型種類株式の全部を消却することを決議し、2021年4月2日に取得、2021年4月3日付で消却を完了しました。

10. キャッシュ・フローに関する補足情報

当第1四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」には、定期預金の純増減額（△は増加）が1,604,506百万円含まれています。

11. 偶発債務

トヨタは、トヨタの製品販売にあたり、販売店と顧客が締結した割賦契約について、販売店の要請に応じ顧客の割賦債務の支払いに関し保証を行っています。顧客が必要な支払いを行わない場合には、トヨタに保証債務を履行する責任が発生します。

将来の潜在的保証支払額は、2021年6月30日現在、最大で3,768,340百万円です。トヨタは、保証債務の履行による損失の発生に備え未払費用を計上しており、2021年6月30日現在の残高は、19,170百万円です。保証債務を履行した場合、トヨタは、保証の対象となった主たる債務を負っている顧客から保証支払額を回収する権利を有します。

トヨタと他の自動車メーカーは、タカタ製エアバッグ問題に関し、メキシコ、カナダ、オーストラリア、イスラエルおよびブラジルの集団訴訟および米国の州や属領による訴訟で名前を挙げられていました。メキシコ、オーストラリア、イスラエル、ブラジルの集団訴訟は係属中です。米国の州や属領による訴訟は解決済です。

以前に開示したとおり、トヨタは、排ガス不具合情報の報告要請における手続上の齟齬を解消すべく行った自主届出に起因する調査案件を解決するための同意判決について、2021年1月14日に、米国環境保護局、司法省およびニューヨーク州南部地区連邦検事局民事部と合意しました。当該同意判決に従い、トヨタは、1.8億米ドルの支払いに同意し、これを支払い、また一定の追加的、定期的な報告要件の遵守に同意しています。当該同意判決は、2021年4月2日に、米国ニューヨーク州南部地区裁判所によって承認されました。

2020年4月、トヨタは、タイ子会社に関する贈賄禁止違反の可能性について米国証券取引委員会および司法省に報告し、調査に協力しています。本件に関する調査の結果、民事罰、刑事罰、罰金、その他の制裁を課せられ、または訴訟を提起される可能性があります。現時点で、本件の範囲、期間、結果を予測することはできません。

この他にも、トヨタに対して、米国における人身傷害や死亡に関わる訴訟および請求を含む、様々な訴訟や請求があり、また、トヨタは行政調査の対象となる場合もあります。

トヨタは、上述の訴訟等に関して見積計上した金額以上の合理的な可能性がある損失の範囲を現時点で予測することはできません。その理由は以下のとおりです。（1）多くの訴訟手続が証拠収集の段階にあること、（2）関連する多くの事実関係が確定される必要があること、（3）申し立ての法的根拠および性質が不明であること、（4）申し立てや上訴に対する今後の裁判所の判断が不明であること、（5）同種の他の案件の結果が様々で、意味ある指針となるような十分な類似性を見出せないことによります。そのため、解決のため協議をおこなっているこれらの訴訟および調査等の結果により、見積計上した金額以上の損失が生じた場合、トヨタの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローに悪影響を及ぼす可能性があります。

12. 追加情報

当社は、2021年5月12日開催の取締役会において、以下のとおり、株式分割および株式分割に伴う定款の一部変更を行うことを決議しました。

①株式分割の目的

株式分割を行い、投資単位当たりの金額を引き下げることにより、より投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大を図ることを目的としています。

②分割の方法

2021年9月30日を基準日として、同日付の株主の所有する当社普通株式を、1株につき5株の割合をもって分割します。

③分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数 : 3,262,997,492株

株式分割により増加する株式数 : 13,051,989,968株

株式分割後の発行済株式総数 : 16,314,987,460株

株式分割後の発行可能株式総数 : 50,000,000,000株

④日程

基準日公告日 : 2021年9月14日 (予定)

基準日 : 2021年9月30日 (予定)

効力発生日 : 2021年10月1日 (予定)

⑤定款の一部変更

上記の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、当該株式分割の効力発生日である2021年10月1日に、当社の発行可能株式総数を10,000,000,000株から50,000,000,000株に増加する定款の変更を行います。

⑥1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が2020年6月30日に終了した3ヶ月間の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、次のとおりです。

	金額：円	
	6月30日に終了した3ヶ月間	
	2020年	2021年
基本的1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益	11.37	64.23
希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期利益	11.37	64.22
1株当たり親会社の所有者に帰属する持分	1,481.70	1,726.93

2 【その他】

2021年5月12日開催の取締役会において、2021年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して行う期末配当につき、次のとおり決議しました。

① 期末配当総額

普通株式	377,453,069,100円
------	------------------

第1回A A型種類株式	2,998,115,208円
-------------	----------------

② 1株当たり期末配当

普通株式	135円00銭
------	---------

第1回A A型種類株式	132円00銭
-------------	---------

③ 支払請求の効力発生日および支払開始日 2021年5月28日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年8月6日

トヨタ自動車株式会社
取締役会 御中

P w C あらた有限責任監査法人
名古屋事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	加藤真美
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	手塚謙二
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	白畑尚志
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中谷聡子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトヨタ自動車株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年6月30日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、トヨタ自動車株式会社及び連結子会社の2021年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年8月6日

【会社名】 トヨタ自動車株式会社

【英訳名】 TOYOTA MOTOR CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役社長 豊田章男

【最高財務責任者の役職氏名】 取締役 近 健太

【本店の所在の場所】 愛知県豊田市トヨタ町1番地

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長 豊田 章男および取締役 近 健太は、当社の2021年6月第1四半期（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。